

「ぼくは、お米とわたし」

長岡市立南中学校一年三組 下川 祥汰

ぼくは、毎朝朝食にご飯を食べています。

それは、中学に入り、自転車通学になり、卓球部に入部したので、腹持ちがよくなるようにと母が出してくれます。ぼくは以前、腹持ちのよくない食べ物を食べて、少し時間が過ぎたら、空腹になって倒れたことがありません。その時、本当につらい思いをしたのでこれからは、しっかり腹持ちのよい食事をしようと思います。

ぼくは、夜もご飯を食べています。ご飯を食べることで、その日の学校や部活でのつかれをとり、夜ゆっくりねられるようにするためです。そして、次の日学校に行くための力をつけることができます。ご飯を食べれば、頭の回転が速くなり、その日の授業をしっかり聞き取ることができます。

お米は、新潟県の特産品です。新潟は雨がとても多いので、おいしいお米がよく育ちま

す。新潟といえは、「コソビカリ」です。ぼくは、コソビカリのご飯を、毎日食べています。ぼくの家のおまは、田んぼです。なので、毎年稲刈りまでの様子を見ています。四、五月、田んぼを耕します。五月、田植えをします。五、九月にかけて稲を育てます。そして九、十月、いよいよ稲刈りです。今はコンバインで稲刈りをしますが、昔は人が道具を使って刈っていたそうです。

ぼくは、小五のころ、小学校の時のみんなと一緒に米づくりを体験したことがあります。田植えをした時、稲を植えたりするのは大変だったけれど、毎年、苦労しながらも一生けん命稲を育てている農家の人たちの苦労が分かりました。秋には、いよいよ稲刈りの季節がやってきました。ぼくたちは、鎌を使って、稲を刈りました。稲刈りも大変だったけれど、おいしいお米のありがたさがよく分かりました。そして、稲刈りの数日後に脱穀をしました。脱穀とは、稲のもみがらを取ることで

脱穀はとても細かい作業だったので、大変でした。しかし、このように手作業で脱穀をしていた昔の農家の人の大変さが分かりました。こうして、ぼくたちが作ったお米ができました。そのお米の名称は、「かがやき米」。ぼくたちの小学校の時の学年ニッケネーム「かがやき学年」にちなんで名付けられました。

小五の最後のころ、「かがやき米」の収穫に感謝する収かく祭が行われました。収かく祭では、「かがやき米」を使った塩むすび

をお家の人たちにするまったり、お米に関する劇をしたりしました。その塩むすびをみんなで食べた時、みんなで苦労して育てた米で作った塩むすびは、すごくおいしかったです。ぼくは、それがぎっかじで、家でも、「コツヒカリ」を使って塩むすびを作っています。

劇では、稲刈りの様子や田植えの様子を体を使って表現しました。この米作りの体験を通してみたら、もう一度やりたくなりました。

田植えや、稲刈りなど、大変な思いをするか

ろこそ、おいしいお米を作る意味があるのだ
と思います。

お米は、日本の食生活には欠かせぬもので
す。お米は、日本を始め、中国やバトナム、
タイなど、アジアの国々でしか育てられてい
ません。だからこそ、アジアの食卓にお米は
欠かせないものなのです。お米は、日本人の
主食です。例えば、テストや大会などがある
とき、ぼくは朝、ご飯を食べています。他に
も、学校や部活があるときもご飯を食べてい
ます。なので、これからもしっかりとご飯を食
べ、毎日腹持ちのよい食事をしていきたいと
思います。